

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ことばの教室そらまめキッズ東谷山				公表日	令和8年2月28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・利用者が活動しやすい構造化の工夫 ・環境設定	・適宜再構造化に取り組んでいきます。 ・環境整備を継続していきます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・支援に余裕が持てない ・状況によって臨機応変に小集団活動を行い対応するなどの工夫	・今後も状況に応じて配置等を変更しながら取り組んでいきます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切にされているか。	○		・視覚支援 ・利用者の特性に応じた室内の環境設定	・転倒しやすい子への対策など、引き続き状況に合わせて検討していきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・支援内容やお子さんの特性に応じて選べるよう個室などが設けられている		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・スタッフ間で話し合い、個別の部屋を優先する利用者への対応	・特性に応じた部屋を選択しつつ一般化にも取り組めるよう環境を整えていきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・社内研修の頻度が高い	・話し合いの時間を設定する以外に、日常の中で声を掛け合える雰囲気をつくっていきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			・統一感を持って支援に当たれるよう情報の共通認識に引き続き努めていきます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・定期的に面談の実施	・面談を行う中で意見やビジョンの擦り合わせを行っていきます。 ・広く意見を言いやすい環境整備に努めます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・第三者からの評価を頂く機会が少ないため、今後充実を図っていきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・希望した研修の受講が可能 学んだことの伝達として社内研修を開催	・今後もスタッフ研修を充実させ、質の向上に努めていきます。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			・新人スタッフでも話し合いに参加しやすい環境作りを進めていきます。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・保護者との面談あり ・スタッフ間でのケア会議も必要に応じて開催している	・今後も保護者との連携を密にとりながら進めていきます。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			・支援状況に応じて個人個人のケア会議の頻度を高め統一した支援を行えるよう時間の確保に努めます。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・個人ファイルを作成 いつでも閲覧できる環境	・今後も計画書を基に、目標立って位に向けて支援を進めていきます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			・日々のアセスメント習慣はついていないが、分析シートの活用等が少ないため、活用を促していきます。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			・地域支援がやや希薄になることが多く、評価シートでの情報提供に頼っている部分が大いいため、今後情報共有や連携に努めていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・ケア会議での内容確認	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・活発な意見交換	・今後も固定化しないよう都度話し合いを進めていきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・必要に応じた支援内容での対応	・今後もスタッフだけでなく家庭とも連携し必要な支援の提供ができるよう取り組んでいきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・情報共有	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・朝礼、昼礼、終礼の実施	・情報共有から支援の方向性の話合いまで密に連携を取っていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			・支援記録のブラッシュアップを行い、支援内容へ活用していきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・保護者との事業所内相談と支援記録、フィードバックでの見直し	・定期的に状況を確認し支援計画へ反映できるよう今後も継続して取り組んでいきます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			・利用児によっては偏りがみられることがある為、バランスをみて支援していきます。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・個別支援の最後は、選択遊びを取り入れている	・引き続きスケジュールの中に自己選択と表出の機会を多く設けていきます。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			・管理職が参加する事が多い。入職年数に関わらず、状況に応じて参加できるよう進めていきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			・適宜連携を試みるが、医療機関等との連携が少ないので、今後の課題として改善に努めます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・基本保護者送迎の為連絡調整は行わない	・連絡を取り合っている学校とそうではない学校が生じているため、差をなくしていけるよう努めます。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			・全ての対象児童で連携が図れているわけではないので、今後検討し図れるよう進めていきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		・ニーズに応じて配慮事項をまとめて共有	・今後も情報共有・提供等行っていきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			・研修参加など積極的に連携の機会を設けていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	○		・現在は機会がほぼない イベント等で交流できる機会を検討していきます。

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	○			・管理職を中心に積極的に参加していきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・面談、フィードバックの実施	・今後も定期的に事業所内相談を実施していきます。保護者が相談しやすい環境作りを今後も努めていきます。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・積極的に声掛けを行う	・幅広く参加いただけるよう、今後も情報の発信に努めていきます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			・初回に説明する事が多く、忘れてしまわれる方もいるので、いつでも手にとれる棚に掲示していることを周知できるよう努めます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			・今後も意向をしっかり把握したうえで、最善の支援の提供を行っていきます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		・説明と同意サイン	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・事業所内相談	・いつでもお声がけいただけるよう事業所内相談等でお伝えしています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		・ペアレントトレーニング	・兄弟児の交流が少ないため、今後法人全体で検討していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・保護者の意見の取り入れ	・意見を言いやすい雰囲気づくりを目指し、迅速に対応できるよう努めていきます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・情報発信	・行事等がほとんどないため、年間計画はありません。必要性について検討していきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・保護者への確認、取り扱いの際の再確認	・引き続き取り扱いには留意していきます。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・意思疎通の確認、対応	・必要に応じてツールを使用したり、支援内容を検討していきます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・地域住民への理解	・地域の方との交流が少ないことが今後の課題です。
非常時等の対	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・家族への発生を想定した訓練の実施の改善	・周知ができていないのか、手にとってみられる方が少ない現状です。周知の徹底に努めます。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・避難訓練	・来年度からは雨水出水浸水地域に認定された為、新しい非難計画作成や訓練の実施に取り組んでいきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・事前の担当者会議やフェイスシートで確認	・服薬・てんかん等の確認は行っているが、予防接種は積極的に確認していません。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・食事提供なし 情報は確認している	・医師とのやり取りが今までないので、今後必要に応じ適宜対応していきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・安全面への情報共有、確認 ・事業所内リスクマップの作製、掲示	

へ 応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・避難訓練後は利用者に対し待合への掲示や、LINEでの報告を行っている。	・掲示だけでは目にされない方も多いので、引き続きLINE等でも発信を行っています。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・複数事業所間で情報共有を行っている	・小さなことから共有を行い、全体での危機管理意識を高めています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・定期的に全事業所での研修が行われている	・早期発見、通報に繋げるだけでなく、保護者との連携から防止にも努めています。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		・同意書を作成 ・委員会を通して対応を統一	・今後も委員会や保護者協力の下、適切な支援をすすめていけるよう取り組んでいきます。